

謹賀新年



平成20年度 埼玉県消費生活功労者表彰
11/18 会員生協の3生協3人の方が受賞



上田県知事を中心に記念撮影

消費者団体役員・生協役員を含む20人の受賞者の表彰式が埼玉県知事公館で行われました。上田県知事は、埼玉県の地産地消の取り組みを紹介すると共に、「振り込め詐欺は全国で3番目の被害件数、消費者団体の皆さんには啓発・啓蒙にかかわっていただきたい」と、期待と日頃の活動への感謝を述べました。



埼玉県生協役員研修委託事業
11/20 埼玉県の新たな地球温暖化防止対策について学習



埼玉県環境部温暖化対策課・北田課長を講師に学習

8生協・連合会の31人（未加盟生協含む）が参加。県環境部の北田氏より「2008年は京都議定書の第一約束期間のスタートや洞爺湖サミット、県の温暖化対策計画の改定もあり重要な年、2009年の県の対策は更に踏み込んだ実践行動期となる」こと等が話されました。

埼玉県生協連写真ニュース

発行:埼玉県生活協同組合連合会 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-11-5 TEL 048-844-8971 URL http://saitama.kenren-coop.jp

2009 冬号 No.29



エコライフ学習会
11/76 家庭の電気ダイエットコンクールで楽しみながらエコライフ

9回目となる「家庭の電気ダイエットコンクール」が、2008年も374世帯の参加で行われました。その結果報告と上位入賞者の表彰、及び温暖化問題の学習に5生協・連合会等から41人が参加しました。



「家庭の電気ダイエットコンクール2008」上位入賞者の表彰



太陽と月が絶妙な位置にあった事から、地球に命が誕生したと説明する室山氏

コンクールに参加した約6割が電気ダイエットに成功！CO₂はもちろん電気使用料に換算すると全体で7万円を超す家計の節約になりました。入賞者の一人は「家族で意識して生活していた事が、いつの間にか身について受賞につながった」と話します。学習会では、NHK解説主幹の室山氏が宇宙からみた地球を画像で紹介。「命が誕生した奇跡の星『地球』において、人間の活動から様々な問題が生じ、温暖化もそのひとつ。人間が引き起こした問題を人間が解決できない訳はない。ポジティブに明るく考え道筋を探していこう」と呼びかけました。



生協ネットワーク協議会第3回・第4回協議会
10/29 地産地消の取り組みを
11/27 学習&交流



県産米「彩のかがやき」の米粉を使ってお菓子づくり

埼玉県の地産地消の取り組みの学習と生産者との交流を深めるため、第3回ではJA女性組織協議会の方を講師に米粉を使った調理実習や関東農政局の方による米粉の学習を、第4回では畜産女性いきいきネットワーク埼玉との交流と、埼玉県における地産地消の取り組みを学習しました。



消費者行政充実埼玉会議主催
(埼玉弁護士会・NPO法人埼玉消費者被害をなくす会・埼玉県消費者団体連絡会・生協を含め28団体)
11/19 埼玉の消費者行政充実・強化に向けてシンポジウムを開催



内閣官房消費者行政一元化準備室の木村参事官が法整備の現状と内容について解説

消費者行政一元化の要となる「消費者庁」設置と共に、地方の消費者行政充実も大きな課題として、行政担当者を含む専門家等68人が参加して開催されました。設置が検討されている地方消費者行政活性化基金（仮称）は、地方自治体の消費者行政充実の財源として充てられます。主催した消費者団体は基金の活用への情報提供と共に県内市町村に充実の検討を呼びかけました。

「食を考える」をテーマに連続学習会

さいたまコープ

世界的な食料不足や日本の食料自給率など食料をめぐる報道が相次ぎ、「食の安全・安心」への関心が高まる中、連続学習会を開催しました。第1回は「産直から食を考える」。第2回「あふれる『食の情報』を考える」では、科学ジャーナリストの松永和紀氏を迎え、農業の現状と科学的根拠にもとづくリスクの考え方や「安全」と「安心」の違い等お話しいただきました。

第2回学習会での使用電力は自然エネルギーを利用したグリーン電力証書の購入によりまかされていました



第1回は県内3カ所のコーププラザで開催、あわせて171人が参加

小学校で環境の出前授業

ドゥコープ

越谷市立大袋東小学校で11月1日エコフェスティバル(※)が開催され、ドゥコープも「目指せ!エコ博士。お買い物ゲーム」と題した授業を行いました。「お買い物ゲーム」では、カレーライスの材料を買う時にどちらの商品が環境に良いか、という観点から選びます。児童達は、ボードに書かれたヒントを読みながら、牛肉やタマネギ等を買ひ物カゴに入れて楽しく学びました。

※複数の企業・団体による出前環境授業で、児童達が環境に関する取り組みを学び体験します



鶴ヶ島市に「くらぶメゾン」第1号がオープン

生活クラブ生協

生活クラブの新しい拠点「くらぶメゾン」が10月25日誕生。ここでは荷受のほか、カルチャー教室や会議、生産者交流会等も開催できます。現在、くらぶメゾン鶴ヶ島の荷受はワーカーズコレクティブ(略:W.co)の「ケチャップ」に委託し、300人以上の組合員が消費材を受け取れることを目指しています。また、カフェレストランもW.co「ぼまと」が運営する等、新しい拠点に夢が広がります。

2階ではおいしいランチをいただけます



北アルプスを望む青木農園(長野県)で“りんご収穫祭”

埼玉県勤労者生協

2,000坪の果樹畑を持つ青木農園で、11月24日組合員とその家族等30人が、りんごの収穫体験をしました。青木農園は35年の歴史あるパルシステムの産直産地で、栽培方法は稲ワラや堆肥など身近にある有機質を入れ、農業は最低限に抑えています。今年のはんごは好条件が揃い、濃厚な甘さとコクはだれもが驚くほど。赤く熟した「ふじ」にかぶりつくと蜜の汁があふれ地面に滴り落ちるほどです。



この紙は再生紙を使用しています PRINTED WITH SOY INK 印刷は環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

県内を自転車で横断 “ピーチャリ” で平和をアピール

医療生協さいたま



「ピーチャリ」(ピースチャリンコの略称)が11月28日~29日に行われ、医療生協さいたまの青年職員、約20人が自転車を交替で運転し、スタート地点の秩父生協病院(秩父市)から終着点の埼玉協同病院(川口市)までの約150kmを、2日間かけて走破しました。途中の駅で核兵器



廃絶の署名活動を行ったり、病院や診療所のある各ポイントでは、大勢の組合員や職員が温かい食べ物や歌声で歓迎しました。

住まいを長持ちさせる知恵を伝授 「知ってトクする住まいの基礎講座」

さいたま住宅生協

組合員参加の地域活動として、11月15日川口市・鳩ヶ谷市の組合員を対象に講座を行い、未加入の方々や協力業者を含め25人が参加しました。住宅生協技術アドバイザー・一級建築士の小儀氏が、建物を考える視点、構造と部位についてやさしく解説。休憩時には生協本部の佐藤氏による十割そばが振る舞われ、食べながらの懇談に話もはずみ好評でした。



大人への憧れが “ごっこあそび” に投影されて

子どものその保育生協

ごっこあそびは、友だちとイメージを一つにし、心と心をつないでいく幼児期の大切な遊びです。最近は生活が便利になった反面、人間同士の会話ややりとりが少なくなり、ごっこあそびも今ひとつ盛り上がりません。子ども達は、バザーで活躍するお母さんやお父さん達の姿を見ながら、それに憧れ自分達のごっこあそびに取り入れています。日頃の組合員活動も保育の中に生きています。



学生委員会が中心となって 活発な活動を展開

大東文化学園生協

2008年は食堂部門の改善に取り組み、品質を保ちながら提供スピードを上げる工夫を職場全体で考えたり、お楽しみミニフェアをたくさん企画しました。組合員活動では学生委員会を中心となり、店舗装飾、食生活相談会、ピアホール、ケーキバイキング、フェアトレードコーナー、お菓子バトル企画など活発に行っています。

